

甲斐風土記の丘(曾根丘陵公園)の古墳

銚子塚古墳(甲府市)

丸山塚古墳から見た甲斐銚子塚古墳/前方後円墳/4世紀後半の築造/東側から見たところで、前方部墳丘の向こうが後円部墳丘



近づいて見る/周溝が巡る/三段築成で埴輪が立てられ、葺石で覆われていたという



東側から見た前方部の墳丘



南東側から見たところ



前方部墳頂に登って後田部方向を見たところ/手前の辺りは「くびれ部」



正面が後円部の墳頂/説明が記された石(タイル)が置かれている



主体部は竪穴式石室/後円部の中央西よりに、南北に向き、割石材で持送りに造られている

竪穴式石室 (銚子塚古墳)

この石室は、埋葬された豪族の遺体を納めた部屋で、木製の棺の周囲に割石を積み上げて造られていると思われる。

昭和三年、偶然の機会から発見され、鏡五、硬玉製勾玉一、碧玉製勾玉一、水晶製勾玉四、碧玉製管玉一五〇、車輪石五、石釧六、杵形石製品二、貝輪一、鉄剣三、鉄刀四、鉄斧三、鉄鏃片などが出土した。

石室は長さ六・五メートル、幅〇・九メートル、高さ一・三メートルの規模である。鏡のうち、三角縁神人車馬画像鏡は、岡山県車塚古墳出土鏡などと同範関係がある。

出土品は東京国立博物館所蔵。



石室内部 (南壁)

後円部の法面を見下ろす/前方は西方向



後円部から前方部を見たところ



くびれ部から前方部を見たところ



くびれ部を見下ろしたところ/前方は南方向



そのくびれ部を法面から見たところ



墳丘を下りて、くびれ部を見上げたところ/説明が記された石(タイル)が置かれている

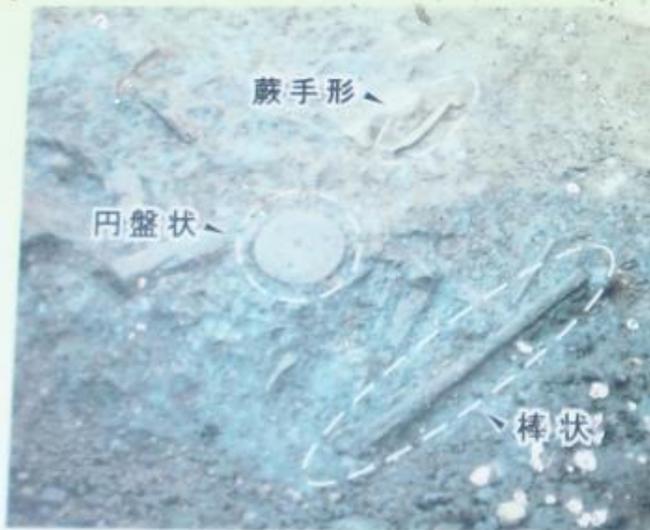


マツリに使う木の道具

えんばんじょうもくせいひん

円盤状木製品など

昭和60年度の発掘調査で発見されました。前方後円墳は円形と方形が接した形をしていて、この接するところをくび括れ部といいます。この南側から円盤状木製品・わらびてがた蕨手形木製品・棒状木製品と呼ばれる木の道具が見つかりました。これらは組み合わせて使われたと考えられます。平成16年度の調査でも後円部西側から同じ物が発見されています。



発見された木の道具



組み合わせた状態



復元イメージ図

南側を前方部から後円部方向に見たところ



南側から後円部を見たところ/三段築成の感じが見てとれる



南側を後円部から前方部方向に見たところ



後円部の西側の裾と周溝を見たところ



後円部のここにも説明が記された石(タイル)が置かれている



正面は西側から見た後円部



周溝から出土した立柱・笠形木製品・円盤状木製品などから当時の葬送儀礼を知ることができるという

マツリに使う木の道具

りっちゅう 立柱

この柱は直径20cm、長さ90cmのスギ材で、周りを石で固められてしっかり立っていました。柱の表面はていねいに削られています。上部は腐って失われていますが、埋め込まれた部分が90cmほどあることから、全体では3~4mの立柱であった可能性があります。古墳に関するマツリに使われたと思われ、木の柱が埋め込まれたまま発見されたことはとても珍しいことです。



発見された立柱



立柱出土位置

マツリに使う木の道具

えんぼんじょうもくせいひん

円盤状木製品など

古墳の周りの濠^{ほり}から木で作った道具がたくさん発見されました。中でも円盤状木製品・^{わらびてがた}蕨手形木製品・棒状木製品と呼ばれるものは、組み合わせることができ、その長さは2.4mにもなります。マツリに使われて、しばらくの間古墳に立てられていましたが、その後、濠^{ほり}の中に投げ込まれたと考えられます。



発見された木の道具

有孔円盤状木製品



蕨手形木製品



棒状木製品



北側を後円部から前方部方向に見たところ/後円部の裾に大小様々な石が敷き詰められている



これはテラス状の平坦部が半円形に張り出したもので、突出部と呼ばれるマツリの場という



マツリノ場

とっしゅつぶ 突出部

平成16年度の発掘調査で発見されました。地盤を削りだし、その表面には石の敷き詰めがありました。これを「突出部」と呼んでいます。表面は南向きに向かって傾斜していました。ここは、古墳で行われたマツリノ場と見られ、東日本の古墳時代前期では初めての発見です。また、「突出部」の真ん中から周濠^{しゅうごう}を横断する土手状の高まりも確認され、陸橋^{わたりづつみ}や渡堤の可能性も考えられています。

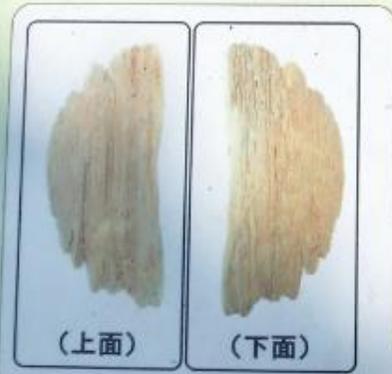


発見された突出部

マツリに使う木の道具

かさがた もくせい ひん 笠形木製品

古墳の周りに掘られた濠を「周濠」^{ほり しゅうごう}といいます。この中から半円形の木の道具が出土しました。上面は中心付近がやや厚く、直径は約50cmです。下面に浅いえぐり状の加工があり、ほぞ穴には下から棒状のものはめ込むようになっています。このことから、これは「笠形木製品」とおもわれます。古墳に長年立てられていたらしく、表面は風雨にさらされて風化していました。

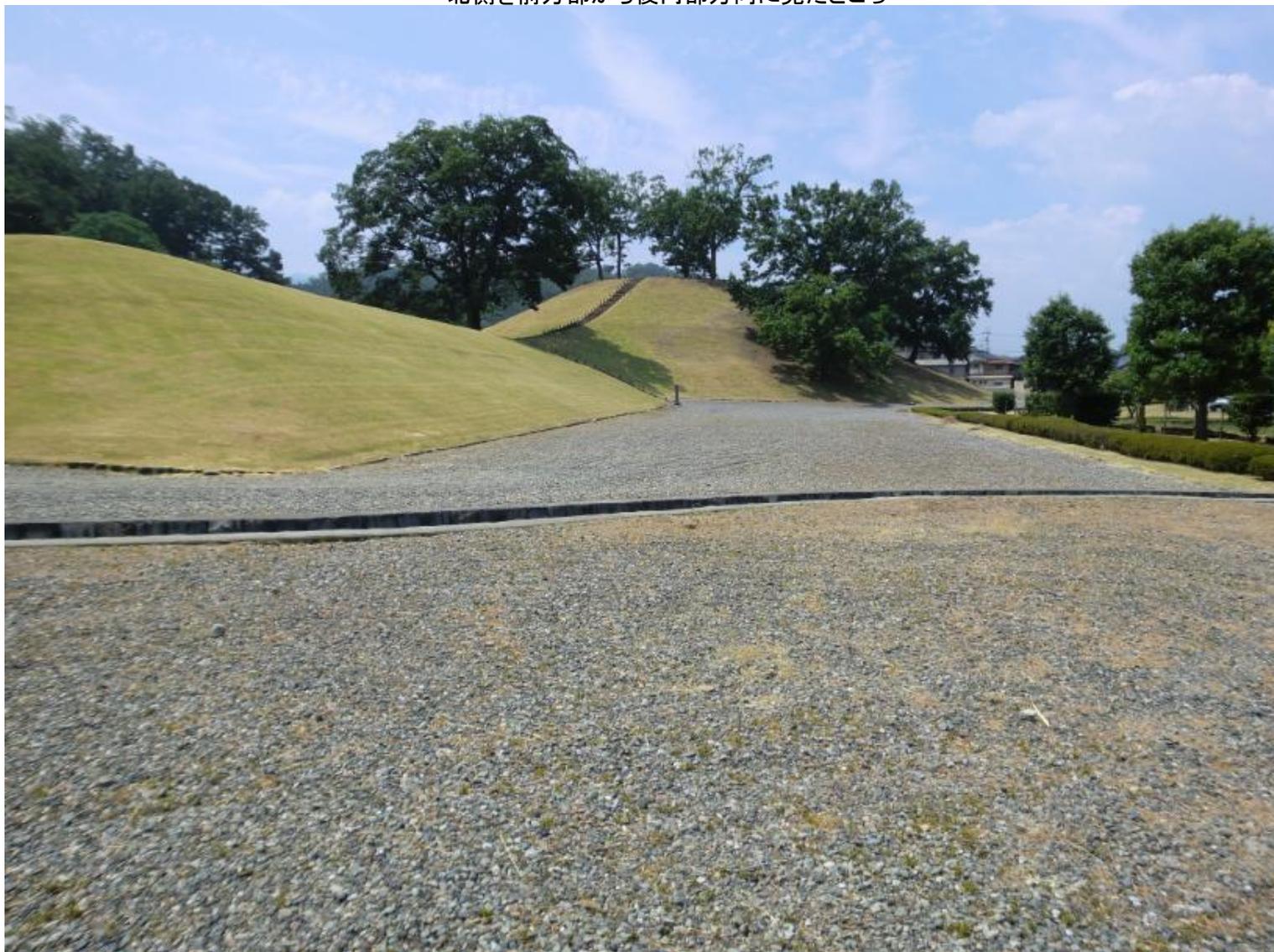


笠形木製品出土位置

北側から見た、くびれ部/「史跡 銚子塚古墳附丸山塚古墳」と記された標柱が立つ



北側を前方部から後円部方向に見たところ



ここにも「史蹟 銚子塚古墳附丸山塚古墳」と記された石碑が立つ



こちらには説明板が並んで立っている



国指定史跡 銚子塚古墳 附 丸山塚古墳と周辺遺跡



この丘陵一帯は、弥生時代の終わりから古墳時代をとおして、権力者の墳墓が造られた地域です。特に、四世紀後半には、東日本最大級の前方後円墳である銚子塚古墳が造られ、五世紀初めには、県下最大規模の円墳である丸山塚古墳が造られ、この地域が甲斐の中心地として重要役割を担っていたと考えられます。

この古墳の周辺にはたくさんの遺跡があり、現在は風土記の遺跡公園として保存整備されています。

丘陵の南側平坦面には百二十基を超える前方後円墳が発見された上の平遺跡をはじめ、五世紀中頃の初期の須恵器が発見された東山南遺跡、二重構造の石室をもつ丸山古墳、丘陵東側には県内最大級の方形周溝墓で四世紀末の馬歯が出土した東山北遺跡などがあります。また、丘陵の北側部分には、初期の馬歯を出土したかんかん塚(茶塚)古墳、初期の須恵器を出土した岩清水遺跡なども発見されています。

これらの古墳や遺跡から出土した鏡や玉類、武器や馬具などの副葬品や、銚子塚古墳の周溝から出土した立柱・笠形など多くのマツリに使う木製品には、畿内の要素をもつ優れたものが多く、東国と西国を結ぶヤマト政権にとっては、とても重要な地域であったことを物語っています。

平成二十年二月
文化庁
山梨県教育委員会

国指定史跡

銚子塚古墳 附丸山塚古墳

昭和五年二月二十八日指定

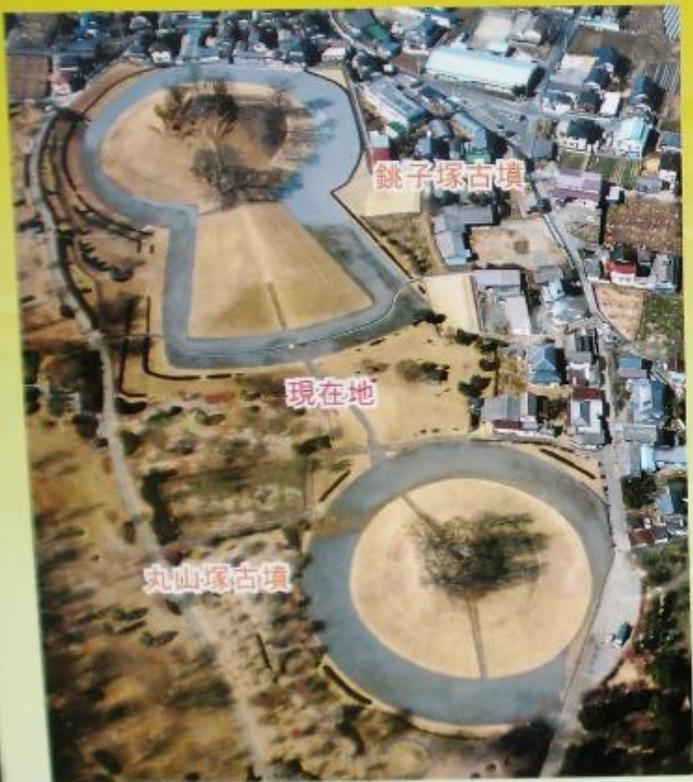
銚子塚古墳

銚子塚古墳は四世紀後半に造られた、当時では東日本最大級の前方後円墳です。昭和三年に石室が見つかり、鏡五面、装身具、武器などが発見されました。石室は竪穴式石室で、後円部の中央西よりに南北に向き、割石材で持送りに造られています。墳丘は三段築成で、埴輪が立てられ、葺石で覆われていました。周濠から出土した立柱・笠形木製品・円盤状木製品などは、古墳で行われた葬送儀礼を知るうえでとても貴重な資料となりました。

規模 墳丘の全長百六十九メートル、後円部径九十二メートル、高さ十五メートル、前方部幅六十八メートル、高さ八・五メートル、竪穴式石室の長さ六六メートル、幅〇・九三メートル、高さ二三・五メートル

副葬品 鏡五面（内行花文鏡・三角縁神人車馬鏡・環状乳神獸鏡・鬘龍鏡・三角縁三神三獸鏡）、車輪石、石釧、杵形石製品、貝釧、勾玉管玉、鉄剣、鉄刀、鉄鎌・鉄斧、鉄鏃など（東京国立博物館に収蔵）

出土品 埴輪・土器・木製品など（山梨県立考古博物館に収蔵）



平成19年3月31日
文化庁
山梨県教育委員会

参考ホームページ

http://v-rini.net/2011/494_sone-kouen.htm

<http://2nd.geocities.jp/txinui/yamanashi01.htm>

<http://www.pref.yamanashi.jp/kouko-hak/standing/choushizukakofun.html>

<http://members3.icom.home.ne.jp/kofun2-hp/vkaicvoushi.htm>

<http://www.fuwaiin.com/kofun/kofun-soremici/yamanasi-koufu-cyousizuka-kofun/yamanasi-oka-cyousizuka-kofun.html>

<http://www.asahi-net.or.jp/~fx3j-aid/kofun/news/news09.html>

http://sgkohun.world.coocan.jp/archive/index.php/kohu_tvousi/

至 精進湖

甲斐風土記の丘・曾根丘陵公園



道路標識あり

国道 358 号

P

上の正方形噴霧広場

芝生広場

テニスコート

バーベキュー場

野外ステージ

遊具広場

トイレ

甲府市役所 中道支所

勾玉広場

風土記の丘研修センター

トイレ

東山南運動場

稲荷塚古墳

P

P





